

## レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

【現 状】

○資金援助の枠組みと最近の方向性

### ・開発途上国への資金援助の枠組み

| 項 目             | 説 明                                                                                     |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 公的開発資金 (ODF)    | 途上国側から見た公的な開発資金の受取額                                                                     |
| 政府開発援助 (ODA)    | 政府もしくは政府の実施機関によって供与される資金の流れ<br>グラント・エレメント（贈与を100%とした際の援助の緩やかさを示す指標）が25%以上であることが基準となっている |
| 二国間支出           | 贈与（無償資金協力、技術協力）と貸付から成る                                                                  |
| 国際機関による支出       | 国際機関への出資・拠出から成る                                                                         |
| その他公的開発資金 (OOF) | ODAの条件を満たさない政府ベースの協力のこと                                                                 |
| 輸出信用            | 海外プロジェクトや輸出等に融資あるいは保証したり、<br>貿易保険を引き受ける等がある                                             |
| 民間資金            | ODA、OOF以外の資金。具体的は、民間金融機関・企業による<br>輸出信用、直接投資、証券投資、対外貸付などで構成されている                         |

### ・最近の援助政策

援助資金をインフラに直接投資するのではなく、**民間資金をインフラ投資に振り向けさせるためのインセンティブとして利用すべきという考え方**

- － 途上国の援助資金の減少や途上国が資金需要に十分対応できない
- － インフラ事業の中にも、民間企業で実施できる部分がある

## レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

【現 状】

○開発途上国への民間企業の参入

### ・民間企業の参入スキーム

| サービス提供者<br>施設・経営 | 官（水道事業者）                                            | 民 間                                                       |
|------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 官<br>（水道事業者）     | （A）[公設公営（公共サービス）]<br>・工事請負契約 ・設備供給契約<br>・アウトソーシング契約 | （B）[公設民営]<br>・アフェルマージュ契約 <sup>（注1）</sup><br>・リース契約 ・DBO契約 |
| 民 間              | （D）[民設公営]<br>・施設のリースバック<br>・BOT契約 ・PFI契約            | （C）[民設民営]<br>・コンセッション契約 <sup>（注2）</sup><br>・民間サービス化       |

### ・民間企業の参入状況

| 契約類型    | 会社数 | 会社数割合% |
|---------|-----|--------|
| 運転管理    | 37  | 17     |
| リース     | 17  | 8      |
| BOTなど   | 119 | 55     |
| コンセッション | 29  | 13     |
| 施設保有    | 11  | 5      |
| その他     | 5   | 2      |
| 合計      | 218 | 100    |

| 会社の起源     | 会社数 | 会社数割合% |
|-----------|-----|--------|
| コングロマリット  | 12  | 8      |
| 水道事業者     | 15  | 10     |
| プラント・メーカー | 21  | 14     |
| 建設会社      | 25  | 17     |
| サービス受託会社  | 10  | 7      |
| ファイナンス会社  | 7   | 5      |
| 水会社       | 15  | 10     |
| 民営化会社     | 13  | 9      |
| 外資系会社     | 30  | 20     |
| 公社        | 3   | 2      |
| 合計        | 151 | 100    |

## レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

### 【今後の課題と対策】

#### ○海外の水道市場への日本企業の展開

#### ・開発途上国への事業展開の課題と対応策（定性的評価）

| 項 目             | 現状/課題と可能性/対策                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ODA市場           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本企業も日本政府ODA市場のうち、無償案件（技術協力・無償）ではかなりの実績があるが、有償案件では（JBIC）ではあまり実績をあげていない。（現状、課題）</li> <li>・ 日本企業は一般に価格競争力が弱い。（課題）</li> <li>・ 有償案件では、受注の可能性が少なくなってくる。（可能性）</li> <li>・ 日本企業は、有償案件を受注できる競争力を付ける。（対策）</li> </ul> |
| ODA関連<br>直接民間投資 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヨーロッパの総合ユーティリティ企業が大きな競争力とシェアを持っている。（現状）</li> <li>・ 日本企業は、ヨーロッパ企業に比べ、実績等が少ない。（課題）</li> <li>・ 日本企業が実績を積む等の競争力をつければ、海外進出の可能性はある。（可能性、対策）</li> </ul>                                                           |
| 完全民間<br>直接民間投資  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水道以外の分野では活発だが、水道分野ではローカル資本が活躍する市場である。（現状、課題）</li> <li>・ 日本企業がローカル企業との合併を行う等のことが可能となれば海外進出の可能性はある。（可能性、対策）</li> </ul>                                                                                       |

## レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

【現 状】

### ○アジア・太平洋水サミットを通じたアジアへの情報発信と交流拡大

#### 関係府省による過去の国際会議への貢献

・第3回世界水フォーラム（平成15年 日本）

・**第4回世界水フォーラム（平成18年 メキシコ）**

日本・故橋本龍太郎会長より、  
「アジア・太平洋水フォーラム」の設立が宣言された。

#### 水と衛生に関する拡大パートナーシップイニシアティブ(WASABI)

日本の水と衛生に関する豊富な経験、知見や技術を活かし、国際機関、他の援助国、NGO等と連携しつつ、開発途上国の自助努力を一層効果的に支援することを表明



・第1回アジア・太平洋水サミットにおいても、水と衛生の立場から必要な協力を行う。

・水道分野における日本の優れた技術を世界に示す機会

・2006年9月アジア・太平洋水フォーラム発足



アジア・太平洋水フォーラムHPより

#### 第1回 アジア・太平洋水サミットを平成19年12月大分県で開催

※第1回アジア・太平洋水サミットの概要  
(主催者)

アジア・太平洋水フォーラム（森喜朗会長）

(テーマ)

「水インフラと人材育成」、「災害管理」、「発展と生態系のための水」

(開催目的)

・アジア・太平洋地域の水情勢について正確な情報発信  
・水分野を通じたアジア・太平洋諸国との友好関係の構築

・水問題に対する国民的関心の向上  
・今後の日本の水政策の推進への寄与  
・世界の水問題の解決への貢献

(招聘者)

アジア・太平洋地域の各国首脳級及び国際機関代表等

## レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

### 【現 状】

○水道分野における国際調和の推進（国際規格（ISO/TC224）策定の経緯）

| ■ ISO / TC224 国際規格策定の主な経緯                | ■ ISO / TC224 現在までの取り組み状況        |
|------------------------------------------|----------------------------------|
| 2001. 4.17 ISOに上下水道サービスの規格化を提案           | 【国際会議】                           |
| 2002. 7.16 ISO/TC224 上水道対策パネル設立          | ・ ISO/TC224 総会 × 6               |
| 2002. 9.27 ISO/TC224 第1回パリ総会（フランス）       | ・ ISO/TC224 WG2会議 × 9            |
| 2003. 9.22 ISO/TC224 第2回オタワ総会（カナダ）       | ・ ISO/TC224 WG3会議 × 10           |
| 2004. 4.13 ISO/TC224 第3回韓国総会・アジアフォーラム    | ・ ISO/TC224 WG4会議 × 13           |
| 2004. 9.27 ISO/TC224 第4回ラパト総会            | 計 38回                            |
| 2005. 1.14 日本水道協会 工務常設委員会                | 【国内会議】                           |
| 1.17 ▶「水道事業ガイドライン」を制定（JWWA規格）            | (1) 上下合同                         |
| 2005.10.17 ISO/TC224 第5回ベルリン総会（ドイツ）      | ・ ISO/TC224 上下水道国内対策委員会 × 9      |
| 2006.11.28 ISO/TC224 プンタ・デル・エステ総会（ウルグアイ） | ・ ISO/TC224 上下水道合同WG会議 × 1       |
| 2007. 9月 国際規格の発行 【予定】                    | (2) 水道                           |
| 2007.11月 ISO/TC224第7回東京総会（日本） 【予定】       | ・ ISO/TC224 上水道対策パネル・WG合同会議 × 18 |
|                                          | ・ ISO/TC224 WG及びWG合同会議 × 11      |
|                                          | ・ ISO/TC224 WGD（国内規格作成） × 4      |
|                                          | 計 43回                            |